

## 読書と思索への誘い



こんにちは、  
福井県立三国高等学校からまいりました、ハリコと申します。今日は、読書と思索への誘いと題しまして、本校の『読書活動』の取り組みを、紹介させていただきます。  
なお、本校司書の前田が、オペレーターをつとめさせていただきます。



それではまず、簡単に、私どもの学校を紹介させていただきます。

### 学校紹介

画面の上の部分に広がるのは、日本海です。  
写真には写っていませんが、右手側には、白山の山並みが広がっているという、風光明媚な立地となっております。  
写真中程、本校を取り巻く緑の帯が、その名も緑ヶ丘ということで、高みですので、校舎の窓から、日本海に沈む夕日を見わたすことができます。



さて、上方に、東尋坊と表示してありますが、今回は福井県有数の観光スポットとしてでなく、本校ゆかりの、そしてまた、ご当地大阪ゆかりの詩人でもある、三好達治の詩碑が建てられている場所として、紹介させていただきます次第です。

戦時疎開で三国町に仮寓した詩人は、生前から、詩碑を建てるなら、是非、三国にと希望していたということで、没後間もなく、処女詩集『測量船』の巻頭詩、「春の岬」を刻んだ詩碑が建てられました。



ただ、地元三国としては、同じく詩碑を建立するなら、地元三国を歌った詩碑にしてほしかったという、不満が実はひそかにくすぶり続けておりまして、町政百年を迎えた年に、記念事業の一環として、新たな詩碑が建てられております。

刻まれましたのは、三国時代に刊行された詩集『故郷の花』所収の一篇、「荒天薄暮」という長詩です。

本校校歌が、実はは達治の作詞ということで、ゆかりの詩人という言い方をさせていただきました。

それでは本校の全景を御覧いただきましょう。



### 福井県立三国高等学校

写真は、この春の風景です。  
現在、全校生徒は約700名。  
各学年、普通科5クラス、家政科1クラスの編成になっております。  
門の奥に小さく、正面玄関が見えておりますが、その右手に、校歌の歌碑が建てております。

## 校歌の歌碑

④



三好達治作詞の校歌は、「心高かれ若人は、雪の峰よりいや清く」と歌っていますが、その景観は今も変わらず、歌詞の「心高かれ」は、校訓となって息づいています

## 校歌の歌碑

実は、校歌制定の頃、詩人は既に、上京を果たしておりました。関係者が詩人を訪ねてついに作詞が実現した経緯は、本校の百周年誌などにも記載されておりますが、三国での5年間はなかったら、三好達治作詞の校歌は、ありえなかったと思われます。昭和19年から24年まで、足かけ5年を過ごした町を、詩人は後年、「わが心の故郷」と呼んでなつかしみました。

さて、ちょっと歌詞を見ていただきましょう

ズーム

心高かれ、若人は  
雲美しき朝明けに  
はるかに望む白山の  
雪の峰より  
いやきよく  
心高かれ、若人は

「心高かれ」のフレーズが繰り返されておりますが、これはそのまま、私どもの学校の校訓として、様々な教育活動の基本理念となっております。

## 校訓

⑤



## 校訓

心高かれ！四文字七音のことばですが、かみくできますと、「心に志を持ち、それを実現するための惜しみない努力を重ねなさい。」「一人の人間として充実した生き方を目指すだけでなく、人々の幸福と平和、人類の未来を視野に入れた生き方を目指しなさい。」とでもなるのでしょうか？

この精神が、本校を支える理念となっているわけです。

それではいよいよ、本校図書館の活動へと、話を進めて参ります。

## はじめに

⑥



- 心の糧となる読書体験と、広く眺め深く考える思索への働きかけは、本校の図書館がさまざまな形で取り組んできた、積年のテーマです。
- 小冊子『読書活動2010』（現在は『読書活動2012』）は、この取り組みの中から考案され、今もなお、より有効な活用法を模索しているところです。
- 現在までの3年間は、試行錯誤の連続でしたが、その経緯を詳らかにすることで、改めて学校図書館の可能性について考えていきたいと願っています。

## はじめに

「心に残る本との出逢い」とありますが、図書館の入り口に掲げられた看板です。

心の糧となる読書体験と、広く眺め、深く考える思索の涵養は、先に掲げた校訓に直結するものとして、本校の図書館がさまざまな形で取り組んできた課題でした。

本日、紹介させていただく、『読書活動2010』（現在は2012）は、この取り組みのなかで、考案され、今もなお、より有効な活用法を模索しているところです。

現在までの3年間は、試行錯誤の連続でしたが、ここまでの経緯を詳らかにすることで、学校図書館の可能性について考えるときの、手掛かりの一端になればと思っています。

それでは最初に、本校図書館の活動を、簡単に紹介させていただきます。

さてまず、本校図書館の活動を、ざっと紹介しておきます。



7

### 図書館のようす

写真の手前が入り口になります。貸し出しのカウンターがある、その直ぐ奥に、貞子風のロングヘアの女の子が座っている席になります。

左奥にわずかにカーテンが見えていますが、こちら側が、前庭を見下ろすベランダになっています。

右手側、上の部分が明かり取りの窓になっていますが、すぐ下がグラウンドです。

盛況のように見えますが、床面積160平方メートルというスペースのせいもあるかもしれません。

手狭な図書館で、本の配架に苦しんでいるような状況です。

さて一年の活動のスタートとなるのが、新入生向けの利用指導です。

利用指導、あるいは利用促進のための調査として、新入生オリエンテーションと、学期ごとの読書実態調査を実施しています。

8



### オリエンテーション

画面の左側を御覧下さい。

パワーポイントを使って、利用指導を行っているところです。生徒たちは、ここで説明を受けた後、図書館に移動して、実際に本を借りる体験をします。

公共図書館ですと、個人のカードがあるわけですが、

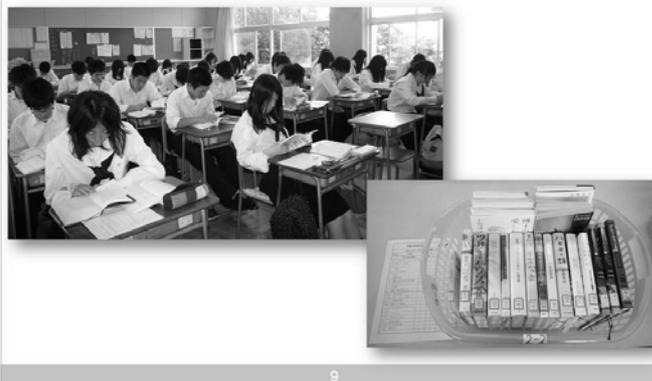
紛失や不携帯というトラブルも予想されますので、本校では、バーコードを冊子におさめたものをカウンターに置き、手続きをしております。

通常は、図書委員が行うのですが、4月当初で、まだ委員がおりませんので、図書のスタッフ(私ですが)が代行しています。

さて、

現在、殆どの学校で朝読書が行なわれていると思いますが、本校でも期間を限って実施しています。

大きな行事は、前期・後期、各一週間の読書タイムで、期間中は、学級文庫を特設し、放課後の利用がむずかしい生徒にも、本に親しむ機会を提供しています。



9

### 読書タイム

前期、後期、各一週間、**読書タイム**という名称で、

朝15分の読書をおこなっています。

写真は、今年度前期、6月の映像です。

スタッフがカメラをもって赴きますと、多少、熱心に読んでいる雰囲気が演出される傾向はありますが、期間を一週間としているせいもあって、読書態度はおおむね、良好なようです。

右下の籠は、学級文庫です。各クラスの図書委員が、前もってかり出し、期間中は教室において利用します。

図書を選んで借りだし、期間中しっかり管理し、まちがいをなく返却するところまでが、図書委員の仕事となっています。

各クラス20冊を貸し出しますので、期間終了後は、返却のチェックに追われます。たいへんといえたいへんですが、図書館の本はつまらないという思いこみに縛られていたり、部活動を口実にしたりして、図書館に足を向けない生徒たちが多いなか、すこしでも多くの生徒が、図書館の本を手に取り、読んでくれればという思いで、つづけられています。

さて、それでは、本校図書館の中をご案内したい

と思います。

新着図書の案内や書架や図書の配置については、  
利用しやすさを追求しています。



10

## 書架

先に見ていただいたように、狭い館内ですので、  
新着図書を何処に置き、どのように案内すれば、  
生徒たちの目にとまりやすいだろうか、と、頭を悩  
ますことになります。

まず、右手の書架ですが     ズーム

右手の新着図書の棚は、館内にはいつでもすぐの  
ところに置かれています。著者の名前がカードで示  
されていて、利用しやすくなっています。

次いで、真ん中の回転書架を御覧下さい。

ここ納められておりますのは、学年ごとのお薦め  
本です。後ほど、改めて説明させていただきます  
が、『読書活動2010』創設の際、選定した推奨  
本がこれに当たります。

左のブックトラックは

随時、入れ替えて、話題の図書、読んで貰いた  
い本、読みやすい本などを、並べています。

現在は、夏休みということで、読書感想文のテキ  
ストにふさわしい、しかも読みやすい本という基準で、  
短編集を中心に、生徒の利用に備えています。

休暇中も補習があり、また、3年生は進学や就職の  
対策に、来館しています。

以上、館内を見ていただきましたが、

館内の整備と並行して、行っているのが、図書館その  
ものへの関心を引く試みです。

広報活動としては、各種掲示、  
毎月の図書館だよりの発行が挙げられます。

11



## 広報活動

広報活動には、毎月発行の図書館便りと、掲示板の  
ディスプレイ、そのときどきに張りだすポスターなど  
がありますが、

まずは、図書館便りを見ていただきます。

4月は、新入生を意識して、三国が文学の町である  
ことを強調した紙面になっています。

4月号

三国という町は、福井県の北端になり、県庁所在  
地の福井市までは、私鉄で約50分、陸の孤島の異  
名をとっている町ですが、そのぶん、学校と地域と  
の結びつきが強い土地柄となっています。

町にゆかりの文学者を顕彰する行事があるときに  
は、まさきに、本校に声がかかります。

というわけで、今年も4月1日に、女流俳人森田  
愛子の追悼句会に、本校の生徒が参加しています。

これは、それを紹介した記事です。

ちょっと補わせていただきますと、

森田愛子は、高濱虚子の門人で、虚子作の短編『虹』  
のヒロインです。彼女を見舞うために、俳諧の巨匠  
は三度、三国に足を運んでいます。

折角ですので、生徒の句をご紹介します1

白梅のかがやくほどの日差し欲し

しみりと友と語らう花の下

四月馬鹿笑うに困る君の嘘

道明寺の呼び名覚えし桜餅

椿咲くいとおいまで大輪に

なかなかの出来映えかと思いますが、当日、その場  
での投句です。現場からのレポートですのでたしかで  
す。図書館は地域の人の要請を受け、生徒を派遣する  
窓口にも、引率責任者にもなっているというわけです。

5月、6月は

今年度は学校長も、教頭も新任ということで、それぞれ、本にまつわるテーマでのエッセイを依頼しました。御覧下さい。 それぞれ、ズーム

「読書のすゝめ」という見出しは、「学問のすゝめ」のもじりですが、学校長お薦めの「福翁自伝」は実は、蔵書のなかに見当たらず、急遽、購入したという裏話があります。教頭推薦の「風が強く吹いている」も、この際ということで、もう一冊、買い入れました。



最新号の7月号を御覧下さい。

### 7月号

こちらは、ALTのポイドダリル先生が、本校を去るに当たって、生徒たちにあてたメッセージとなっています。この部分ズーム

日本に住むというのが夢だったという先生は5カ年という異例の長期滞在で、ディー先生の愛称で親しまれる存在でした。

紙面の下の部分は、読書タイムを終えてのアンケートの集計です。この部分ズーム

読書タイムに対する評価は、よかったが66%、普通が31%、良くなかったが3%。

15分で実施していますが、58%の生徒がもっと長い方がいいと回答しており、かなり肯定的に受け取れていると判断してよさそうです。

右端は、おわかりでしょうか？ この部分ズーム  
ゴーヤとミニトマトですが、図書館のベランダで栽培しているものになります。

ベランダにゴーヤも揺れてエコライフと、俳句だか川柳だか分かりませんが、なんとかそれらしく詠んだりしておりますが、実際は緑のカーテンにはほど遠いありさまです。

ただ、これを植えるころから、教室にいるのがつらいという、不登校予備軍のような男子生徒一名が、図

書館を居場所にしつつあったのですが、

なぜか水やりなどを担当するようになるなかで、次第に回復、教室復帰を、果たすまでになりました。

進路変更も考えていたほどだったので、トマト以上の収穫ではないかと、驚いているところです。

ベランダのトマトは、生徒を呼び込むほどではありませんが、少しでも生徒が目を向けるようにということで、行っておりますのが、ミニギャラリーです。

ミニギャラリーや、委員会としての学校祭への参加、芸術鑑賞行事の主催など、親しみやすい図書館作りを目指しています。



### 入り口付近

写真左手、照明が付いているコーナーが、ミニギャラリーとなっています。

芸術の授業で美術を選択している生徒達の作品が展示されているところです。

右側の笹は、七夕飾りに擬して展示したのですが、吊ってあるのは、短冊ではなく同じく芸術の書道選択の生徒達による寄せ文字です。

自分の作品、あるいは友人の作品を見つけると、やはり、はしゃいだ声が上がります。生徒たちのなかに少しずつ、図書館の企画に目を向けたり、心待ちにするような動きがでてくれればと期待しています。

学校祭に図書委員会として参加しているのも、図書館の敷居を低くする試みです。



## 学校祭

写真は、昨年度の学校祭です。

まず、パネルシアターのようなのですが、ズーム

図書委員会が企画して、本校の卒業生に依頼して実現したものです。演じているのは、家政科から県内短大幼児教育学科に進学した卒業生です。もと図書委員でもあります。

画面の下は、菜作りを体験しているところです。

この部分ズーム

この企画は古本市とリンクしてまして、お買い上げいただくと景品に菜がついてくる、また、オリジナルの菜を作る体験のみの参加もOKというかたちで行われました。収益があわせて約8千円ありまして、東日本大震災学校図書館復校の基金として、協力させていただきました。

学校規模で行う芸術鑑賞も、図書館が担当して行っています。選定はさすがに私ども教諭が行っておりますが、当日の運営は図書委員で行っています。

今年度は古典芸能でした。



## 古典芸能

演劇、古典芸能、音楽の三つの分野でローテーションを組んで実施しておりますので、生徒達は在学中に、この3つ分野の本物にふれることが出来るわけです。今年は古典芸能ということで、紙工劇落語、紙切りの芸を取り入れた新しいタイプの話芸を楽しむことが出来ました。

写真は、6月11日、月曜日の午後で、かなり暑かったのですが、このあとのアンケートでは、よかった、おもしろかったという声がほとんどでした。

以上、図書館に足の向かない生徒たちを、なんとか取り込もうと、さまざまなアプローチを試みているわけですが、

メインとなる活動は、もちろん、よりよい読書体験を重ねさせていくということです。

専用の小冊子を使って、読書活動を積み重ねていこうという『読書活動』の試みは、このような活動と連繋しながら展開されています。



## 読書活動2012

ご覧いただいておりますのが、今回の発表の主眼となります、小冊子『読書活動2012』です。

1年生がグリーン、2年生がピンク、三年生がクリーム色ということで、すでに定着してきています。

このような専用の冊子をつかって読書活動を積み重ねていこうという試みが、どのように生まれ、進展してきたのかを、順を追ってお話したいと思います。

最初は、『読書活動2010』の創設と初年度の概況ということになります。

(1)『読書活動2010』の創設と初年度の概況

①『読書活動2010』の創設まで

☆生徒の実態(平成21年度図書館概要)

・ 年度別入館者数	8,854人平均40人
・ 貸出冊数(年間)	1,562冊
・ 多読者上位3人	110冊・100冊・90冊
・ 貸し出されている本	末次由紀(ちはやふる)・山田悠介 湊かなえ・西尾維新・東野圭吾

### 『読書活動2010』の創設と初年度の概況

最初におことわりしておきますと、『読書活動2010』の創設と初年度の概況となっておりますように、以下、『読書活動2011』、『読書活動2012』と、年度を追って、経過を報告していくこととなります。

ではまず、いったいどういうところから、こういう取り組みが始められたのかということから、説明させていただきます。

#### 『読書活動2010』の創設までをご覧ください。

ここで紹介しております概況は、平成21年度、すなわち2009年の数値ですので、まさに創設前夜のものとなります。

年間入館者数が8,854人、開館日が、二百数十日ですから、一日平均約40人の計算です。

貸出冊数は、1,562冊、ただし上位の生徒が、100冊単位で読んでおりますので、0冊という生徒が少なくないということは、容易に想像されるかと思えます。

次いで、貸し出された本を列挙しますと、

ちはやふるの末次由紀、山田悠介、湊かなえ、西尾維新、東野圭吾と、 트렌ディーな作家があがってきています。 適宜ズーム

「ちはやふる」は、漫画ですが、かるたをあつかっていて、しかも福井県が出てくるというので、人気の図書となっています。



昨年は隣接する町で「ちはやふる聖地巡礼」というイベントがあったのですが、当時3年生だった女子生徒がガイド役を引き受けて参加しています。

福井県はかるたクィーン・名人を輩出している土地柄でもあり、本校かるた部も少数精鋭で上位大会に食い込んでおりますので、図書館も全巻購入の構えです。

湊かなえが上がっているのは、この頃、映画にもなった告白が、校内でもブレイクした結果です。

山田祐介は、積極的に推奨しているわけではないのですが、生徒のリクエストの強さの押されて、入れているうちに、かなりの冊数が揃うことになってしまっています。生徒が読みたがる本と、私たちが読ませたいと思う本の間には、埋めがたい溝があるというのが実際です。

さて以上を総括しますと、見えてくるのは、

総括

読む子は読むが、読まない子は読まない。  
読む子にしても、良質の読書とはいえない。

#### 総括

読む子は読むが読まない子は読まない  
読む子にしても、良質の読書とは言いがたい

即ち、二極分化と、貧しすぎる読書内容という概況です。

ここから、導き出されたのが、次の問題点でした。

問題点

19

- 一部の生徒が偏った本を読みふけているという状況であり、ほとんどの生徒は読書の習慣を持っていない。
- 心の糧となるような読書活動は、ほとんど見られない。

### 問題点

一部の生徒が偏った本に読みふけているという状況であり、ほとんどの生徒は読書の習慣を持っていない。

入り口の看板に掲げていることではありますが、心の糧となる読書活動は皆無である

「心高かれ」を標榜するには、あまりにお粗末な実態であることを、今更ながら確認せざるを得ないという状況でした。この実態を直視するところから、私たちの取り組みは始まりました。

改善にむけて考えた柱が3点あります。

改善に向けて考えたこと

20

- 多くの生徒が否応なく読書活動に引き込まれていく仕掛けの構築
- 多様な分野にわたる読書活動に誘い込む手だての工夫
- 読みっぱなしではなく、考える読書活動にしていくやり方の考案

### 改善に向けて考えたこと

まず、多くの生徒が否応なく読書活動に引き込まれていく仕掛けを構築していこうということ

次に、多様な分野にわたる読書活動に誘い込む手だてを工夫していこうということ

最後に、読みっぱなしではなく、考える読書活動にしていくやり方を考案していこうということ

この3点について検討を重ねた結果、対策として打ち出されたのが、この『読書活動2010』であ

ったということです。

## 21 対策

対策

21

- 読書活動を記録していくノート(小冊子)を作る。→『読書活動2010』
- 読むべき本を、学年ごとに明示し、複数配架する。
- 全校生徒の最初の取り組みに向け、テキストを厳選・国語科の協力を得る。  
☆最初のテキストは司馬遼太郎  
「21世紀に生きる君たちへ」



読書のための小冊子を作ろうということになり、表紙のデザイン、見返しの部分、各ページの様式、評価のあり方、推奨本の選定など、様々な準備がなされました。のちほど、冊子の写真もでてまいりますので、そこで、ごらんいただけたと思います。

冊子の考案とならんで、進められたのが、推奨本の選定です。読むべき本を学年ごとに示すことは、偏った読書を是正するための急務でした。

既に岩波新書やジュニア新書が継続して入っていましたが、より読みやすく、また話題性もあるものをということで、時には書店に向き、調べてみました。できる範囲ではありましたが、調査研究を経て、PHPの新書が妥当だろうということになり、これを中心に選定、複数の図書を購入して、学年ごとに分かりやすい形で配架しました。

さてこうして、いよいよ読書活動2010がスタートするわけですが、

全校一斉に、新たに取り組むことなので、4月の活動は、国語科に全面的な協力を要請しました。

新学期のなるべく早い授業を、この冊子を使った読書活動に当てて、実際に図書館で学習として、冊子を活用した読書を展開してもらったということです。

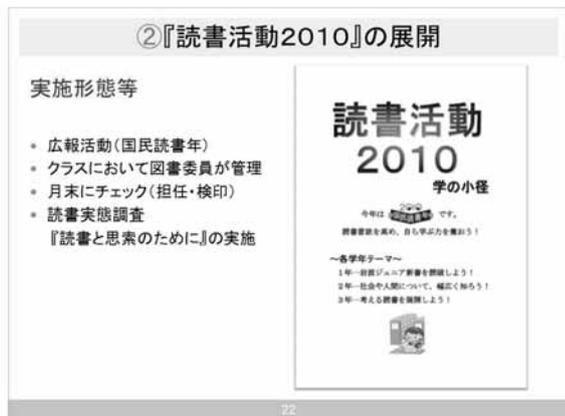
おかげをもちまして、全生徒が、本を読み、学んだことや考えたことを記録するというやりかたを体験的に学習するところからスタートすることが出来ました。

なお、このとき最初のテキストとして選定したのは、司馬遼太郎の著作、「21世紀に生きる君たちへ」でした。授業時間内で読み、考え、考えたことを文章にすることのできる質と量を備えているもの、メッセージ性があり、学年を越えた読書に堪えられる深さのあるもの、ということでの選定でした。

なお、各ページは、学んだこと・分かったことと、

考えたこと、思ったことを区別して記入する体裁になっております。テキストから読みとったことと、自分が考えたことを明確に区別して記述することは、小論文等を書く際に、有効であると思われたからです。

それでは、実際の展開について話しを進めてまいります。



## 22 『読書活動2010』の展開

まず、画面の右にありますのが、広報に使ったポスターです。

折しも、国民読書年という追い風も吹きましたので、滑り出しとしては上々吉の雰囲気がありました。

小さく「学の小径」とありますのは、校歌の2番に「学の小径の語らいや」と歌われているフレーズから取ったもので、『読書活動2010』の表紙にも、サブタイトルのように記載されています。

いちいち『読書活動2010』というのも、口に憚りますので、生徒得意の縮めて呼ぶ呼び方で、ガクコミとかなってくれればと期待したのですが、これは全く気配さえ見えないまま、今に至っています。

さて、実施形態ですが、冊子は、クラスごとにケースに収め、各教室に置くこととしました、管理は図書委員が行い、月末には、担任がチェックする。というごくシンプルな形態で、スタートしました。同時に、この活動が、どれだけ浸透しているかを確認する目的で、読書実態調査を開始しています。「読書と思索のため」という、今回のこの発表のタイトルは、実はこの実態調査のネーミングでもあります。

推奨本を示し、  
記録のためのノートと

年間10冊という努力目標を設定したことで、劇的などまではいかないにせよ、なんらかの効果があることを、期待したということは、今振り返ってみますと、余りにも楽観的だったよう

です。

そのことを数値ではっきり示したデータがあります。

取り組みの概況						
23						
平成22年度 学校経営計画に対する評価報告						
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標指標	判断基準	集計結果	回答者
図書活動	図書資料の充実と読書推進の取組の多様な読書体験を深める。	読書実態を調査し、読書体験を深める。多様な読書体験を深める。	【成果指標】 考える読書が身につく。	『読書活動2010』はしっかりと取り組めたか。		
			【目標指標】 A+Bの合計が50%以上	A 10冊以上の本を読み、内容や感想を記録できた。	11.7%	読書活動の振り返りや記録を促した。生徒は、全体の目標達成に貢献した。目標達成に向け、読書実態調査を深めていく。
				B 10冊、と記入したが、記録は不十分だった。	19.8%	
				C 5冊から10冊の範囲だった。	21.2%	
				D 5冊以下の本しか読めなかった。	55.5%	
無回答	9.0%					

## 23 取り組みの概況

これは平成22年度、2010年の学校経営計画に対する評価報告の図書館に関するページの一部分です。

「読書活動2010」にしっかり取り組みましたか？という質問を判断基準に、

考える読書が身についたかどうかを評価するものです。

10冊以上の本を読み、内容や感想を記録できたと回答したのは、全体の約12%、とりえず読んだが不十分だった(11%)とあわせても全体の3割に達しませんでした。後ほど比較の数値として出てまいりますので、この3割という数値をご記憶下さい。

半数以上が3冊以下の本誌が読めなかったと回答していますが、これは、年度途中で挫折したと言い換えられます。御覧いただいている画面で、年度途中で挫折するケースが続出したと表示しているのは、このことです。

もちろん、担任がたまたま国語科であったりした場合は、クラスの取り組みも比較的良好で、結果として、クラス間に格差が現れることにもなりました。

熱心に取り組んで、良い結果を出してくれた同僚には感謝感激ですが、

そもそも優れた方式は、それにのっとりさえすれば、いつでも誰でも相応の成果を収めるというものであるべきですから、私たちの考案した『読書活動2010』は、方式として失敗だった、あまりに杜撰で粗悪であったと認めざるを得ない結果でした。

総括の画面をご覧ください。

## 総括

生徒・職員への周知の仕方が不十分であったために、成果を出すことが出来なかった。

## 問題点

年間10冊という、目標が達成できなかった。  
担任の理解・協力が充分には得られなかった。  
図書館利用者や貸し出しの増加につながらなかった。

## 改善に向けて考えたこと

関連の教科の協力を得て、ジャンルを決めた読書活動を推進していく仕組みの構築  
図書委員の活用。(役割を明確にし、責任を持たせる)

24

## 24 総括

生徒・職員への周知の仕方が不十分であったために、成果を出すことが出来なかった。

まさに敗北宣言ですが、  
その中で

問題点として拾ったのが、以下の3点でした

まず年間10冊という目標が達成できなかったこと  
次いで、担任の理解・協力が得られなかったこと  
最後に、この取り組みが、図書館の利用や貸し出しの増加につながらなかったこと

以上の、3点です。

最後の、取り組みが利用につながらなかったという点については、また後ほど数値でお示しすることになります。

そこで、改善に向けて、考えたことですが、

まず出てきたのは、月ごとに、ジャンルを決めて読書活動を展開できないかということです。

「そのためには、関連の教科の協力を得るのが得策だろう」、「どうしたら理解を得て、円滑に展開できるだろうか」と、細かく詰めていくなかで、各教科から連絡委員をだしてもらい、図書館と教科とのパイプ役を務めてもらうことなどが考案されました。

画面にある

関連の教科の協力を得て、ジャンルを決めた読書活動を推進していく仕組みの構築ということです。

また、「図書館と生徒を繋ぐのは、なんといっても図書委員だろう」、「図書委員を育て、活用することを考えられないか」ということも検討の材料となりました。

具体的には、役割を明確にし、責任を持たせるということになります。

そこで打ち出された対策が、改訂版の『読書活動2011』でした。



## 25 対策

『読書活動2010』と比較しながらお話しさせていただきます。

『2010』の表紙の見返しを見ていただくと、年間10冊という目標に合わせた、シンプルな表があるだけです。

『2011』のほうは、ジャンルが明記されています。このジャンルは、分類番号の0から9までを指しています。

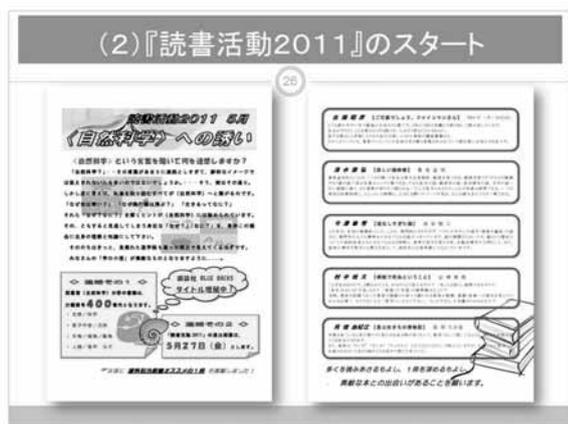
また、右端には担当した教科の検印の欄も設けています。

下の部分は、『2010』から引き継いだ、学年のテーマと、推奨本の一覧です。

さて4月は、やはり国語科の協力で、一斉のスタートとなりました。

今回はジャンルを文学として、<sup>みうらてつお</sup>三浦哲郎の短編「とんかつ」をテキストに指定しました。少年の進路実現をテーマに舞台も福井県で、永平寺や東尋坊など、馴染みのある地名がでてくるところなど、多くの生徒が、親しみを持って読んでくれるのではないかと期待した部分もあります。

5月以降が、いよいよ各教科の協力を得ての展開となりますが、まずは、5月、科学の広報に使われたポスターを御覧下さい。



**26 『読書活動2011』のスタート**

ここからが、20011年度の取り組みになって参ります。

さて、ポスターですが、自然科学への誘いと標題を掲げまして、そもそも自然科学とは、どういふ分野なのか、どういふとらえかたをすればいいのか、という基本的なことが明示してあります。分類番号なら400番代であることや、締め切り日も明記してあります。

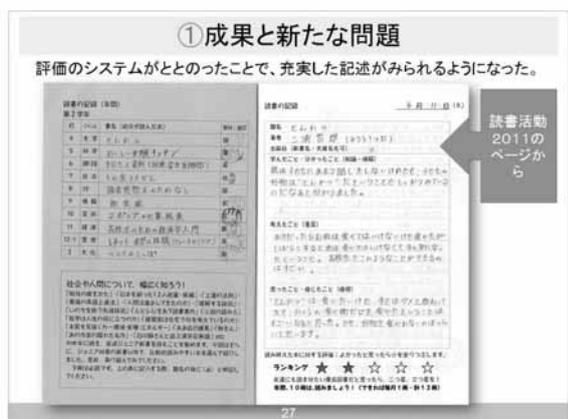
右側は、理科の教諭によるお薦めの本とコメントです。

ジャンルと担当教科が直結する場合は、積極的な協力を得ることが出来たように思います。

図書館側としては、課題のジャンルが変わるのにあわせて、館内のレイアウトを変えました。

その月のジャンルの本を、ブックトラックに載せたり、平積みにししたり、工夫を凝らしました。

それではここで、生徒たちの記述を、紹介させていただきます。



**27 成果と新たな問題点**

見出しは成果と新たな問題点となっておりますが、問題点は後回しにして、まずは、成果から、お話しさ

せていただきます。

いよいよ、『読書活動』の冊子の実物を見ていただくわけですが、まずは見返しにある表を御覧下さい。

毎月の課題となっているジャンルの本が、読まれているのが、お分かりいただけると思います。

5月は科学で「おいしい実験キッチン」

6月は、国際・言語で、「国境なき医師団」

7月は、社会で「もの食う人々」

8月は、読書感想文のためになし。

記載者はいたって真面目な生徒のようです。

9月は、情報で「拒食症」

10月は芸術で「Jポップの心象風景」

11月、経済、「高校生のための経済学入門」

12月 - 1月、思想で、「金色の林檎」

ここは、2ヶ月で1冊ですが、年末年始で、冬休みも入りますので、妥当なところだろうと思っています。

2月、文化、「ベルけのしっぽ」

年間通して記載され、担当者の検印も押されています。

続いて、別の生徒の冊子で、5月・6月のページを見てみましょう！



**28**

5月、ペンギンの歩く町 湾岸戦争のときのことかなと思いますが、担当者が、感想の記述にアンダーラインを引いて、「ちゃんと大事なことを読みとったな」という感じのメッセージを伝えているのがおわかりかと思ひます。

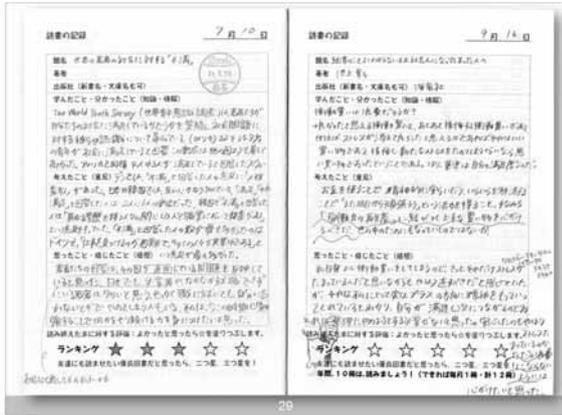
ページの下ランキングは、三つ星レストランとよく聞く評価に習って、生徒達がテキストに対

して、この本は二つ星とか三つ星とか判定する仕組みになっています。

これは四つ星の高評価です！

同じ生徒ですが、6月が、六本足の子ども、核兵器や戦争についての意見を綴っています。

別の生徒の7月と9月を見てみましょう！



29

別の生徒の7月です。

「世界の若者の社会に対する『不満』」

ぎっしり書いています。この月のジャンルは、社会科で、「各国を比較してみるとおもしろいかも」と、担当者が助言を書き込んでいます。

9月のページ、

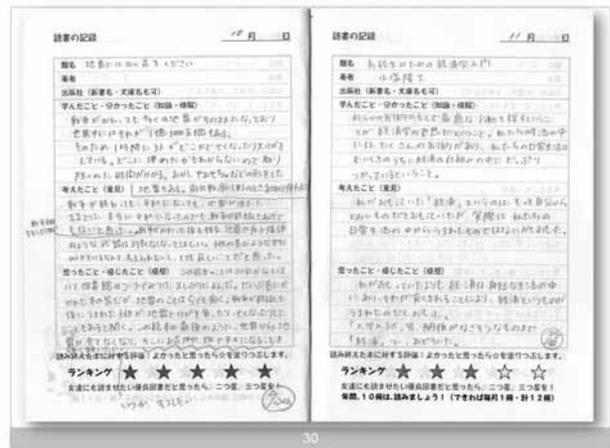
池上彰さんという、まさに旬の書き手の著書「経済のことがよくわからないまま社会人になってしまった人へ」という本で書いているところが、まず注目されます。

分かったこととして、いい買い物だったか、悪い買い物だったかの基準は自分の満足度にあるのだということが書かれています。

そこから考えを進めて、「労働力の再生産」に結びつく上手な買い物をこころがけるべきだ、それが、世の中のためにもなっていくのではないかと、書かれてくるわけですが、担当者もこの部分に、よく考えたねという、波線をつけています。

最後は、自分自身の消費行動を振り返っての感想になっていて、ここには、担当者もざっくばらんなコメントを付けています。

また、人を変えて、10月のページになります。



30

「地雷ではなく花を下さい」この時のジャンルは芸術ということで、実はこれは絵本ですが、五つ星をつけて、ぎっしり書いてあります。

地雷がアメリカの南北戦争の時いらいのものであるという記載は、そんな昔からあったのかという驚きを伝えています。

お菓子やおもちゃの形をした地雷があると書きとめたときの、憤りも浮かぶようです。

戦争が終わっても地雷で亡くなる子どもたちがいることに触れ、「この絵本の最後のように、世界から地雷がすべてなくなり、そこにお花畑や木々になることを強く願いたい」と結んでいます。担当者もしっかりアンダーラインを引いて、「いつかそうしたいね」とコメントしています。

以上、見ていただいたように、充実した記述が見られるようになったということで、年度末、卒業式の前日に、表彰を行いました。

生徒の取り組みに対する評価

31

3月1日・優秀者の表彰

- ・読書活動2011奨励賞個人39名
- ・クラス表彰3クラス
- ・多読者表彰4名
- ・特別賞1名

31 生徒の取り組みに対する評価

これまで、ご覧いただいたような、しっかりした記述を、年間通して積み重ねることが出来た生徒、39名に、奨励賞を授与、ちょっとした文具類の副賞も用意しました。それぞれの学年で、クラスとしての取り組みが良かったところは、クラス表彰も行いました。特別賞の対象は、実は図書委員長で、年間通して、この取り組みが滞りなく展開できたのは、図書委員をまとめた彼のリーダーシップに負うところが大きかったということで、記念すべき受賞となりました。

いいことづくめようですが、勿論問題点もありました。総括のあと、拾ってみたいと思います。

32 総括					
● 図書館提唱の『読書活動2011』が、ようやく学校全体を巻き込むものとして定着した。ようやく成果が見えたところであるが、その半面、新たな問題も浮上した。					
平成23年度 学校経営計画に対する評価報告					
項目	重点目標	具体的取組	評価の観点・目標達成	判断基準	集計結果 回答率
図書活動推進	図書委員会の充実を図る。読書の楽しさを伝える。読書体験をきっかけとした読書活動の推進を図る。	読書委員会を軸として、読書体験を重点として、多様な読書体験を取り組みを推進する。	【成果指標】 考える読書が身について、	『読書活動2011』にしっかりと取り組めたか。	今年度の成果と前年度への評価 読書活動2011は、今年度の成果と前年度への評価 読書活動2011は、今年度の成果と前年度への評価 読書活動2011は、今年度の成果と前年度への評価 読書活動2011は、今年度の成果と前年度への評価
			A 期日、期日を守って提出できた。	31.4%	
			B 提出期日に遅れることがあった。	21.1%	
			C 提出できないことがあった。	29.4%	
			D 途中で挫折した。	20.7%	
E 無回答	9.5%				

### 32 総括

『2010』の概況と同じく、学校経営計画に対する評価の数値で見えていきます。前回同様「読書活動2011にしっかり取り組みましたか？」の問いに答える形で、考える読書が身についたかどうか、成果を判定しようというものです。年間10冊読むという基本的なあり方に合わせて、判断基準の立て方が改められていますが、前年度と比較するのに支障はありません。

毎回、期日を守って提出できたが31%、遅れることがあったが21%、合わせて52%の生徒が10冊は読めたということになります。前年度が3割に満たなかったことを考えますと、飛躍的な増加です。途中で挫折したという回答は20%、つまり、8割の生徒が、まがりなりにも、年間通して読書活動に取り組んだということになります。

これだけの成果を上げる一方で浮上してきた問題とは何か、いよいよ、そこに触れていくことにします。

### 問題点

- 各教科の協力を得ることを前提にしたスタートであったが、結果として予想外の負担をかけるケースも出た。
- 教科で点検、すみやかに教室に戻すという流れを基本としていたため、いったん滞ると、冊子の所在が把握しにくい事態が起きた。
- 教科での点検・評価ということが前面に出て、帯を写したり、級友の記載をそのまま書き写したりするケースも出てきた。
- 点検の仕方にばらつきがあり、図書スタッフが代行していく場合も生じた。

### 33 問題点

問題点ということで、4点上がっています。

#### まず、あがったのが

各教科の協力を得る事を前提にスタートして、結果として、予想外の負担を掛けるケースが出てしまったということです。

図書館側としては、やはり生徒の意欲をつなぐには、誰かがしっかり見ている、評価する人がいるということが、やはり大切だろうということで、お願いしたわけですが、

担当する側からすると、評価するからには基準を立てなくては行けないとか、全員が提出するまで、徹底的に指導すべきだろうとか、あくまでも教科で行う指導の一つとしてきちんと行うべきだという考えも当然出てくるわけで、私たちが、簡単に考えていたのとは、違ってきた部分があるということです。

#### 次に

教科で点検し、すみやかに教室にもどすという流れが、いったん滞ると、あと、元のサイクルに戻すのが大変だったということがあります。

ひどい場合は、一時的にはありますが、冊子の所在がつかめないという事態にもなりました。

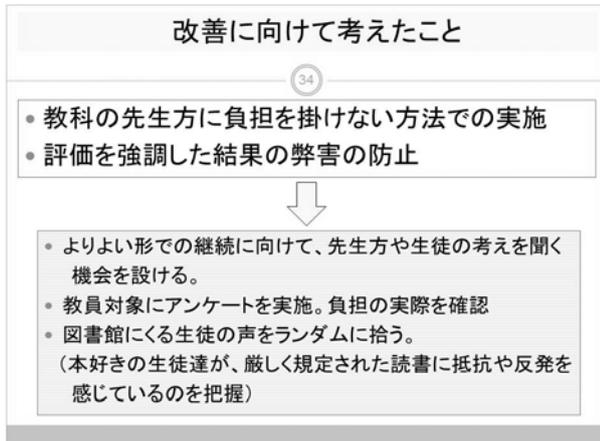
(夏休みと学校祭の9月が天敵です)

**3点目は**、生徒への悪影響になりますが、評価されるということが前面に押し出された結果、帯を写したり、級友の文章をそのまま書き写すというケースが何件かあがってきたということです。

**最後の**点検の仕方にばらつきがあるというのは、もちろん、ある程度、想定していたことですが、余りにも機械的な処理では、生徒の意欲をむしろそくよう

な結果にもなりかねないので、図書のスタッフが代行する場合もありました。

以上の問題点を踏まえて、改善に向けて考えたことは、



### 34 改善に向けて考えたこと

当然ながら教科の先生方に負担を掛けない方法で実施するにはどうしたらよいか？教科を強調した結果の弊害を、どう是正していくかの、2点でした。

この二つの問題をクリアしていくために、まずしたことは、先生方や生徒の声を拾うことでした。教科会への問いかけ、図書館に来る生徒たちの意見の収集といったことが挙げられます。

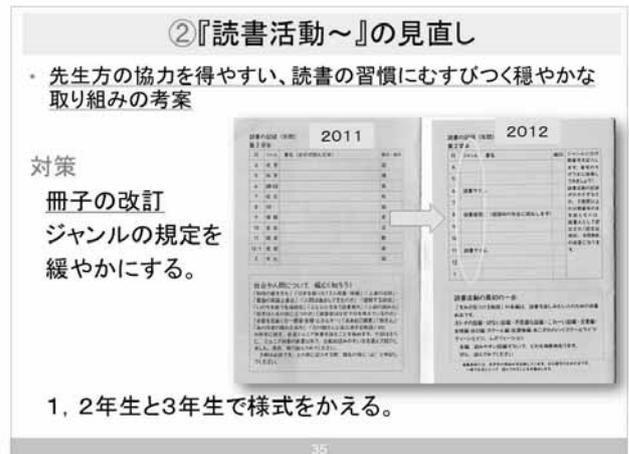
教員対象に行ったアンケートでは、次年度もまた同様のことをお願いした場合、協力してもらえるかどうかという問いに、教科として非常に厳密に取り組んだ実績のある職員がむしろ辛口のコメントを寄せていたのが印象的でした。

生徒の声では、本好きの生徒達が、分野を決められて、読まされるという感じのなかで本を読むことに、ある種の抵抗を感じていることを、聞き取ることができました。そこで取り組まれたのが、テキストの見直しです。

### 35 『読書活動～』の見直し

先のテキストが攻めの姿勢であったと見れば、今度の改訂は、穏やかな取り組みを基本に構想されることになりました。すなわち、先生方の協力を得やすい、読書の習慣に結びつく、穏やかな取り組みの考案です。

新旧の冊子を見比べる形で説明します。



2011は、先に御覧いただいたとおり、月々のジャンルが規定されていました。

対する2012は、特に規定を設けないかたちになっています。

ただ注意事項として、表の右側になりますがジャンルには、図では丸く囲んであるこの欄になりますが、ここには分類番号を記入し、番号の違う本に挑戦してみましょう！と呼びかけています。

読書活動の記録が欠かさずなされ、3種類以上の分類番号の本を読んだ人は、読書達人として認定され、(認定証授与)年間表彰の対象になりますと、記載しました。

ちなみに、認定証のことは、殆ど失念しておりましたので、これからちょっとカッコいいものを制作したいと思います。

各ページも、変更を加え、本から得た知識情報を記入する欄と、感想を書く欄の二つにしました。

感銘を受けた部分・大事だと思ったところを、ページを明記して書き抜いておくというのが、知識情報の欄になります。帯や友人のものを書き写すのでなく、中身をしっかり読むようにというねらいももちろんありますが、それ以上に、読書の記録が蓄積され、たとえば小論文を書くようなときに、あの本にあれが書いてあったなど、活用できるような日が来ることを考えて企画したものです。

また、生徒が取り組みやすいよう、読書タイムの月は、それに合わせたページに変更し、8月は、読書感想文についてのお知らせのページになっています。

さらに3年生は、様式を変え、月々の記録ではなく、随時書き込み、進路実現に向けた、積極的な活用をしていける作りに改めました。

冊子の改訂に伴って、管理・点検にも、新たな方法を取り入れました。

管理・点検の方法を変更

36

- 図書館に置いて一括管理。(3年生は進路室)
- 1・2年生は図書部で点検。3年生は進路・学年会に任せる。



### 36 管理・点検の方法

まず、各教室でなく、図書館の専用の棚に置くことにしました。3年生の分は、進路指導室前のロッカーにおいて、進路部や学年会で活用して貰うかたちに変更しました。

ここからは、平成24年度、『読書活動2012』をめぐる報告になって参ります。

(3)『読書活動2012』の新たなスタート

37

- 新入生への図書管理用指導



### 37 『読書活動2012』の新たなスタート

画面は、今年のオリエンテーションで使用したパワーポイントの表紙になります。2クラス単位で、パワーポイントを使ったガイダンスを受け、図書館で実際に借りてみるという一連の利用指導になりますが、このときの様子については、既に見ていただいたとおりです。

さて、画面は、読書活動2012の表紙になります。



### 38 読書活動2012

既に、お馴染みになりつつある表紙です。

色、デザインを踏襲して、高校時代の読書体験として、この冊子が脳裡にやきついてくれればと、生徒が嫌がりそうなことを考えています。

裏表紙に、分類を明記したのも、今回の改訂からになります。

3種類以上の分類番号とは？

39



分類(ジャンル)  
0~9の中から3種類  
以上を読みましよう

### 39 3種類以上の分類とは

今年度は、三つ以上の分野にわたった読書活動をしようということで展開しておりますので、0から9の中から3種類以上を読みましよう、吹き出しに入れて、アピールする形になっています。

スタートに当たっては、今年度も国語科の協力を取り付けました。1, 2年生の全クラスが、4月中の授業で、図書館に来て読書活動に取り組んでいきました。テキストについては、限定するのではなく、時間内に読んで感想をまとめることの出来る短編集を充実させることで対応するという方法をとってみました。

読書活動の最初の一步として、購入したシリーズになります。



#### 40 読書活動の最初の一步

表紙は高校生好みになっていますが、内容は、すでに評価の定まった書き手を網羅して、読書の入り口として進めるにふさわしいものになっているのではないかと思います。

ここで、『読書活動2012』の利用法を、示しておきます。



#### 41 読書活動2012 利用法

今年度は各クラスとも、これまでのケースのほかに、記入済みのものを入れるケースを用意しました。毎月20日までに各自で書き込み、随時、記入済みのケースに入れておくというやり方です。

図で確認しますと

- 1、各クラスのケースから各自取り出す
- 2、毎月20日までに本を読み、読書活動2012の冊子に記入する。
- 3、記入五、各クラスの記入済みのケースに入れるという流れになります。

さて、その記入済みが、どうなっていくかというのが、次の図になります。



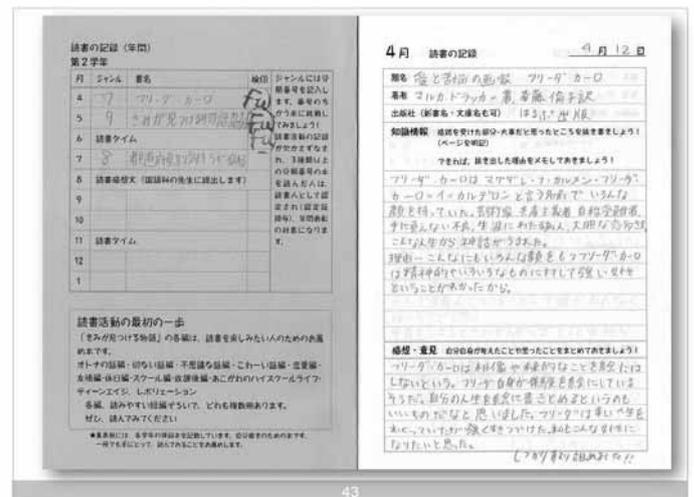
#### 42 読書活動2012の流れ

図の右下、読書活動2012に記入の続きになります。カーブした矢印に導かれまして、記入済みのケースに入れる。ここまで、先ほど説明した分けですが、次の黄色い部分「記入の有無をチェック」というのを、今年度は図書館スタッフで行うことにしました。

本校では、各校務分掌の部会のための時間が、授業時間内に設定されていますので、毎月最後の週の部会の時間に、スタッフ全員で点検に当たっています。

チェックを終え、元のケースに入れておくと、また、次の月の活動が始まっていくというわけです。

ようやく1学期が終わったところですが、2012のページをいくつか、ご紹介させていただきます。

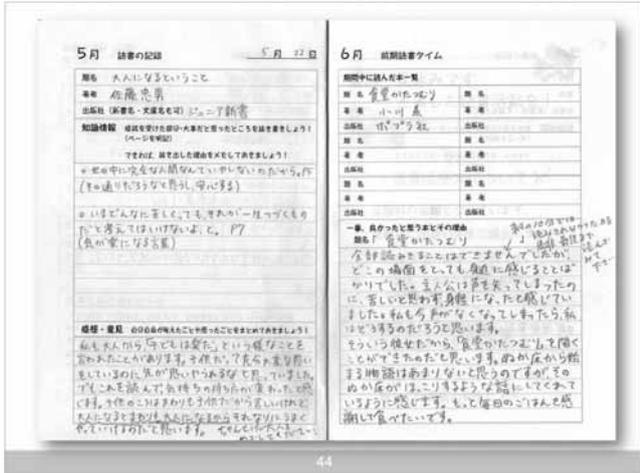


#### 43

見返しの部分をまず見てみましょう。ジャンルの番号が、既に3種類になっています。4月のページに目をやりますと、

ちょっと分かりにくいですが、書き抜いた部分と、その理由、書き抜いた理由がシルされているのが分かります。

感想の部分には、担当者がとりくみを褒めるコメントを書き込んでいます。別の生徒で、5月、6月を見てみましょう！



44

ジュニア新書「おとなになるということ」をテキストに、知識情報の欄は、ページも明記し、( )には書き抜いた理由も書き込んであります。

感想

「私も大人から『子どもは楽だ』というようなことを言われたことがあります。子どもだって、充分たいへんな思いをしているのに先が思いやられるなど思っていました。」ここが、おもしろいですね、つまり、充分大変な思いをしているのに、楽だと言われる、大人になったらどうなるんだ？と心配だと言っているわけです。私だったら、絶対ここにアンダラインを引きたいところですが、担当者は、この生徒が「大人になるとまわりも大人になるから」と、それこそちょっとおとなのコメントをしているところを評価して波線を引いています。コメントは、「ちゃんとした大人を目指してください。」だれ？って感じです。

6月は読書タイムのページです。

毎日一冊読んで大丈夫な仕様になっていますが、いまのところ、ややおおげさすぎたかなという感じです。

この生徒も、冒頭に全部読み切れなかったと告白しています。コメントは、是非、最後まで読んでみてください。

最後に

この『読書活動』の取り組みが、図書館の利用とどのように結びついているかということですが、

これは、読書実態調査、読書と思索のためにで、数値として確認することが出来ます。

**状況**

45

☆読書と思索のために(7月実施)

図書館を利用するときはどんなときですか？ (複数回答)

クラス	本を読み たいとき	読書活動 2010のため	予習や復習 のため	勉強	読書- リフレッシュ	読書や し	持ち合わせ など	その他
1年	46	101	3	29	22	29	7	19
2年	36	99	5	22	23	66	5	8
3年	51	46	15	69	34	74	5	11
H24合計	133	246	23	120	79	169	17	38
H23合計	145	228	48	165	72	150	13	31
H22合計	152	34	73	172	108	241	26	53

45 状況

調査は学期末ごとに行っていますが、7月実施の分で、過去3カ年の経過をたどってみたいと思います。

図書館を利用するのは、どんな時ですかという問いに読書活動のためと答えているのは、

- 22年度、読書活動2010創設の年には22ポイント
- 23年度が、228ポイント
- 24年度が、246ポイント という結果になっています。さらに
- 今年度の状況を見ますと
- 1年生は101ポイント
- 2年生は99ポイント
- 3年生は46ポイントとなっていて、3年生の活動を学年会と進路指導部に委ねたことの影響がうかがえます。
- 3年生の扱いについては、次年度の課題となるかもしれませぬ。

さて、私どもの3年間の取り組みを逐一順を追って報告させていただいて参りましたが、最後に、この取り組みを通して考えましたことをお伝えして、発表を締め括らせていただくことにします。

## おわりに

46

- ・ 読書活動とは本来、個々に委ねられた個人的な営みであるべきものだと思います。偏った分野の限られた作家の本に耽溺することも、もちろん容認されてよいわけですが、十代の読書に限っては、幅広いジャンルの多様な書物に及んで欲しいし、本を楽しむという地平に留まるだけでなく、自己自身や世界について考えるという内省あるいは思索といった深みまで、到達して欲しいと思います。
- ・ 『読書活動2010』『2011』『2012』の取り組みは、図書館に来ざるを得ない状況を創出し、ある程度の幅をもった読書といくらかは考えざるを得ない仕組みの定着を図ろうとするものです。
- ・ よりよい読書活動を重ね、自身の内面に思索の深淵を蓄えていけるよう、様々な手だてを講じることを図書館の役割の一つとして引き受けていくことを、提案したいと思います。

### 45 終わりに

読書活動2010を構想したとき、私どもにあったのは、読書活動という個人的な営みに介入していくことへのある種のためらいだったように思います。偏った分野の限られた作家の本に耽溺することに、口を挟んでいくことへのためらいです。ただ、十代の読書に限っては、幅広いジャンルにおよぶ多様な読書がやはり有効なのではないか。単に読書を楽しむだけでなく、自分自身について考えたり自己を取り巻く世界について考えるという内省あるいは、思索といった深みまで到達してもらいたいというのが、私どもの思いです。

読書活動『2010』『2011』『2012』の取り組みは、図書館に来ざるを得ない状況を作りだし、ある程度の幅を持った読書といくらかは考えざるを得ない仕組みの定着をはかろうとする企てでした。よりよい読書活動を重ね、自身の内面に思索の深淵を蓄えていけるよう、様々な手だてを講じることを、図書館の役割のひとつとして引き受けていくことを、もちろん、皆さん、既に実践しているところではあるかと思いますが、改めて、提案するとともに、私どももまた、実践を重ねていきたいと、思いを新たにしております。

長々とお話しさせていただきました。  
ありがとうございました。